

PRIMERGY オプション製品

システム構成図(留意事項編)

サーバ監視ソフト ServerViewについて

サーバ監視ソフトServerViewでは以下のような機能があります。

[Windows Server 2003/Windows 2000]

項目	ServerView
主な機能	サーバ状態監視 異常通知 電源投入/切断スケジュール(一部未サポートモデルあり) パフォーマンス監視 (CPU負荷率、PCIバス負荷率など)
アラート機能 (異常通知方法)	インターネットメール送信 SNMPトラップ送信 メッセージボックス(監視対象サーバ上、管理サーバ上) ポケベル プログラム起動 接続クライアントへブロードキャスト
リモートサービスボードサポート	
使用メモリ	16 ~ 32MB

サーバ異常検出時のメッセージボックスは、サーバにログオンしていないと表示されません。

ログオンしていないときに発生した異常は、インターネットメール、SNMPトラップにて通知することができます。
また、イベントログにて発生を確認することができます。

[Red Hat Linux]

項目	Linuxサーバ上	監視用Windows端末
主な機能	サーバ状態監視 異常通知 * Web Extension使用による	サーバ状態監視 電源投入 / 切断 スケジュール運転設定 * モデルによる パフォーマンス監視 (CPU負荷率、PCIバス負荷率など) しきい値マネージャは使用できません。
アラート機能 (異常通知方法)	インターネットメール送信 SNMPトラップ送信	インターネットメール送信 SNMPトラップ送信 メッセージボックス ポケベル プログラム起動 接続クライアントへブロードキャスト
リモートサービスボードサポート		-
使用メモリ	32MB以上	16 ~ 32MB

*LinuxサーバよりSNMPトラップを受信しての処理となる

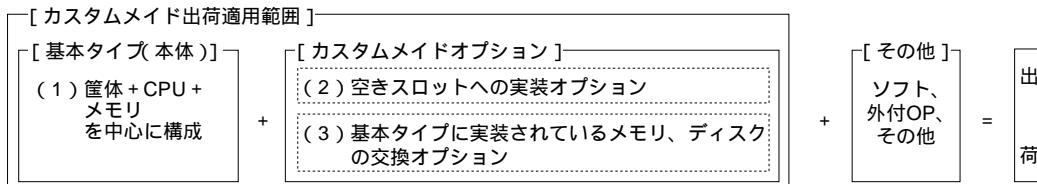
カスタムメイド出荷について

カスタムメイド出荷とは、ハードウェアの標準構成をメモリ / ディスク等のオプションごとにお客様の仕様に合わせて追加/変更し、本体に実装して出荷することのできる形態です。

カスタムメイド出荷により、お客様のシステム規模/予算にあった最適なシステム構成での導入が可能となります。

1. カスタムメイド出荷対象製品の製品構成について

カスタムメイド出荷対象製品の製品構成は、「基本タイプ(本体)」と「カスタムメイドオプション」から構成されます(下図参照)。それ以外の製品に関しては、従来通り、製品単位で出荷されます。



[カスタムメイド適用製品一覧]

(1) 基本タイプ(本体)

ECONEL 40/TX150 S2/TX200 S2/TX600/RX100 S2/RX200 S2/RX300 S2/RX800/BX600/BX660の全タイプが対象となります。
(TX150FT S2/TX200FT S2/オールインワンタイプを除く。)

(2) カスタムメイドオプション：空きスロットへの実装オプション

PRIMERGY専用の内蔵オプションが対象となります。(注: FMVとの共通製品等を除く。)

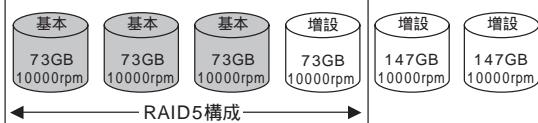
(3) Linuxインストール代行サービスバンドルタイプ

Linuxインストール代行サービスバンドルタイプは一部オプションのみカスタムメイド対象となります。適用可能オプションは各本体樹系図の「Linuxインストール代行サービスバンドルタイプのカスタムメイド対応について」を参照下さい。

2. アレイタイプ(RAID5構成)におけるオプションHDDのカスタムメイド出荷について(オールインワンタイプを除く)

アレイタイプ(RAID5構成)でオプションHDDを手配した場合、基本HDD、および基本HDDと同一容量/同一回転数/同一型名のオプションHDDはRAID5で構成されます。それ以外のオプションHDDは初期化されておりませんので初期化処理を行ってからご使用ください。

[例]



3. ディスクレスタイプにおけるカスタムメイド出荷について

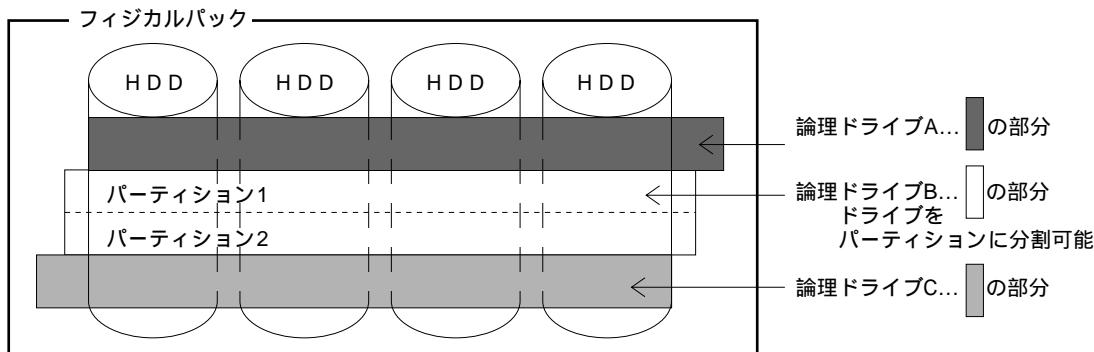
ディスクレスタイプでOSをインストールする際には、予定外の装置に間違ってOSがインストールされることを事前に防ぐため、OSインストール先のSCSIハードディスク以外のSCSIオプション装置(ハードディスク、内蔵/外付バックアップ装置、光磁気ディスクユニット等)を一旦取り外し、OSインストール終了後に再接続する必要があります。カスタムメイド手配時にはご注意願います。

システム構成図留意事項

ハードディスク関連事項

ディスクアレイ構成の考え方

- ・ フィジカルパック ····· 1つのRAIDを構成する物理的なHDDの集まり。
- ・ 論理ドライブ ····· ネットワークOSがドライブとして認識できるドライブ。
- ・ パーティション ····· ネットワークOSで設定する論理ドライブを分割したアクセス論理単位。

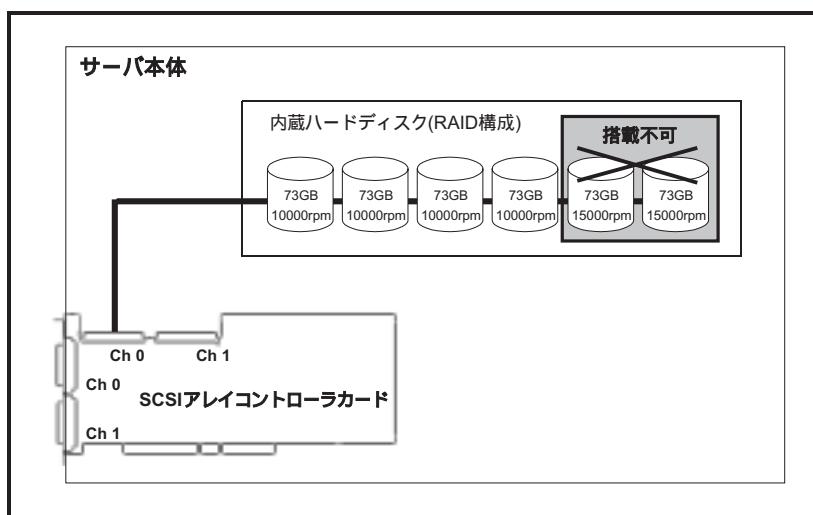


<構成規則について>

- (1) フィジカルパックは必ず同じ型名のハードディスクユニットで構成してください。
- (2) フィジカルパックを構築する場合、合計サイズが2TBを越えないように設定してください。
一つの論理ドライブの最大サイズは、2TBとなります。(ただし、Linuxにおいては一つの論理ドライブの最大サイズは1TB未満となります。)
フィジカルパック容量と論理ドライブ容量は常に同一となります。
- (3) 一つのフィジカルパックを構成するハードディスクユニットの台数は以下のとおりです。

・ RAID0	(性能向上のために、データを複数ディスクへ分割して書込む方式)	— 2 ~ 16台	[論理ドライブの実効データ容量は接続したディスク容量の総和]
・ RAID1	(信頼性向上のために、ディスクを二重化し同一データを書込む方式)	— 2台	[論理ドライブの実効データ容量は接続したディスク容量の1/2]
・ RAID5	(信頼性向上のために、データを分割しパリティを加えて書込む方式)	— 3 ~ 16台	[論理ドライブの実効データ容量は(接続したディスク台数 - 1)台分]
・ RAID6/0+1	(信頼性向上のために、データを二重化かつ分割して書込む方式)	— 3 ~ 16台	[論理ドライブの実効データ容量は接続したディスク容量の1/2]

PG-140D/141C/142E/142E3のRAID0+1は4~16台で偶数のみ構成可。
1台のハードディスクでフィジカルパックを構成することはできません。
- (4) 一つのフィジカルパックを複数の論理ドライブに分割した場合の各論理ドライブのRAIDレベルは同じものしか設定できません。
- (5) 一つのフィジカルパックは必ず、同一のアレイコントローラカードにつながるハードディスクで構成してください。
- (6) 1枚のアレイコントローラカードで複数のフィジカルパックを設定することができます。但し、ハードディスクユニットは以下の条件を満す必要があります。
 - ・ フィジカルパックは同型名のハードディスクで構成する。
 - ・ 複数のフィジカルパックを同容量のハードディスクで構成する場合は、すべて同型名のハードディスクで構成する。
- (7) 1枚のアレイコントローラカードでRAIDレベルの異なる複数のフィジカルパックを混在させた設定も可能です。
- (8) 異なる型名のハードディスクを使用して複数のフィジカルパックを構成し、ホットスペアディスクを設定する場合には各々のフィジカルパックに対して、同型名のホットスペアディスクを最低1台設定して下さい。
- (9) 1枚のアレイコントローラカード内で、同容量でかつ回転数の異なるハードディスクを混在させることはできません。



- (10) サーバ本体内蔵のハードディスクは必ず1枚のアレイコントローラカードでRAIDを構成する必要があります。

ハードディスクキャビネット / SCSIアレイコントローラカード / SCSIカードの注意事項

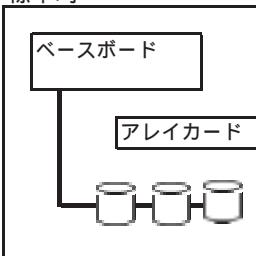
ハードディスクキャビネットについて

OSは必ずサーバ本体内蔵ハードディスクにインストールする必要があります。

SCSIケーブル接続機構(PGBCBLS012)について

TX600/RX800のディスクレスタイプにSCSIアレイコントローラカードをカスタムメイドで手配する場合、SCSIケーブル接続機構(PGBCBLS012)が必須となります。

標準時



SCSIアレイコントローラカードをカスタムメイドで手配しても、SCSIケーブルはオンボードSCSIに接続されています。

SCSIアレイコントローラカード[PG-140D]について

SCSIアレイコントローラカードはサーバ本体1台につき1枚のみ搭載可能です。

SCSIアレイコントローラカードに接続可能なハードディスクはサーバ本体内蔵ハードディスクのみです。

サーバ本体内蔵ハードディスクはサーバのオンボードSCSIを使用して接続します。

RAID0/1/5において、フィジカルパックに論理ドライブが1つだけ存在する場合のみフィジカルパックの容量拡張機能が使用可能です。
(Windows Server™ 2003/Windows 2000のみサポート)

SCSIアレイコントローラカード[PG-141C / 141CL]について

SCSIアレイコントローラカードはサーバ本体1台につき1枚のみ搭載可能です。

SCSIアレイコントローラカードに接続可能なハードディスクはサーバ本体内蔵ハードディスクのみです。

RAID0/1/5において、フィジカルパックに論理ドライブが1つだけ存在する場合のみフィジカルパックの容量拡張機能が使用可能です。
(Windows Server™ 2003/Windows 2000のみサポート)

SCSIアレイコントローラカード[PG-142E / PG-142E3]について

RAID0/1/5において、フィジカルパックに論理ドライブが1つだけ存在する場合のみフィジカルパックの容量拡張機能が使用可能です。
(Windows Server™ 2003/Windows 2000のみサポート)

SCSIアレイコントローラカード[PG-144C]について

異なる容量のハードディスクを使用して複数のフィジカルパックを構成し、ホットスペアディスクを設定する場合は、最も小さな容量のハードディスクに対してのみ設定可能です。

PG-144CでPRIMERGY SX30（ハードディスクキャビネット）に接続する場合、

PG-144Cおよび内蔵ハードディスクユニット（Ultra320 SCSI対応）はUltra160 SCSIの転送速度で動作します。

SCSIケーブル接続機構適用時



SCSIケーブル接続機構を適用すると
SCSIケーブルはSCSIアレイコントローラカードに接続されます。

システム構成図留意事項

SCSIアレイコントローラカード接続方法

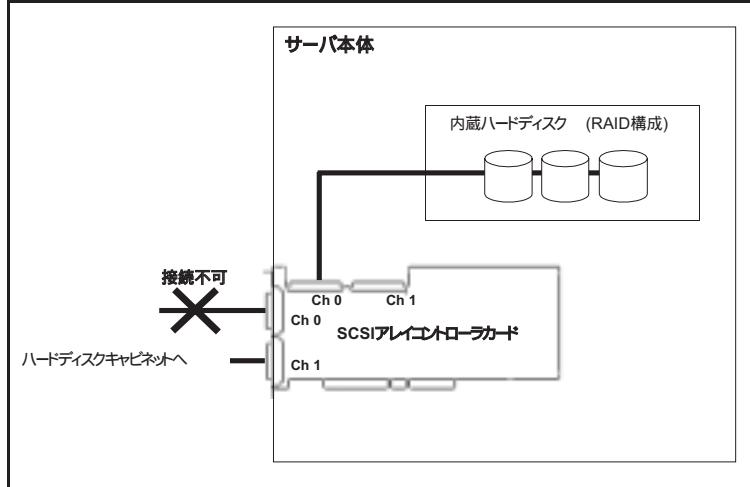
SCSIアレイコントローラカード		PG-140D (Ultra320 SCSI, 0ch)			PG-141C (Ultra320 SCSI, 1ch)			PG-141CL (Ultra320 SCSI, 1ch)		
接続先		内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)
ECONEL 40		x	x	x		x	x	x	x	x
TX150 S2			x	x	x	x	x	x	x	x
TX200 S2	標準ドライブケージ	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	基本ドライブケージ変換機構適用時	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	標準ドライブケージ + 内蔵ハードディスクペイ接換機構適用時	x	x	x	x	x	x	x	x	x
TX600		x	x	x	x	x	x	x	x	x
RX100 S2		x	x	x	x	x	x		x	x
RX200 S2		x	x	x	x	x	x	x	x	x
RX300 S2	標準PCIスロット	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	基本カードスロット変換機構適用時	x	x	x	x	x	x	x	x	x
RX800		x	x	x	x	x	x	x	x	x
BX600		x	x	x	x	x	x	x	x	x
BX660		x	x	x	x	x	x	x	x	x

SCSIアレイコントローラカード		PG-142E (Ultra320 SCSI, 2ch, バッテリーバックアップ機能)			PG-142E3 (Ultra320 SCSI, 2ch, バッテリーバックアップ機能)			PG-144C (Ultra160 SCSI, 4ch, バッテリーバックアップ機能)		
接続先		内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)	内蔵ハードディスク	ハードディスク キャビネット	内蔵ハードディスク/ ハードディスク キャビネット同時(*1)
ECONEL 40		x	x	x	x	x	x	x	x	x
TX150 S2		x	x	x	x	x	x	x	x	x
TX200 S2	標準ドライブケージ	x	x	x				x	x	x
	基本ドライブケージ変換機構適用時	x	x	x			x	x	x	x
	標準ドライブケージ + 内蔵ハードディスクペイ接換機構適用時	x	x	x			x	x	x	x
TX600				x	x	x	x	x		x
RX100 S2		x	x	x	x	x	x	x	x	x
RX200 S2		x	x	x	x	x	x	x	x	x
RX300 S2	標準PCIスロット	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	基本カードスロット変換機構適用時	x	x	x	x	x	x	x	x	x
RX800					x	x	x	x	x	x
BX600		x	x	x	x	x	x	x	x	x
BX660		x	x	x	x	x	x	x	x	x

*1 : 1枚のSCSIアレイコントローラカードで内蔵ハードディスクおよびハードディスクキャビネットを同時接続する場合は、
「SCSIアレイコントローラカードの内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネット同時接続について」を参照下さい。

SCSIアレイコントローラカードの内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネット同時接続について

1枚のSCSIアレイコントローラカードで内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネットを同時接続する場合には、
内蔵ハードディスクとハードディスクキャビネット接続用にそれぞれチャネルを分ける必要があります。
同一チャネルにおける内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネットの同時接続はできません。
またホットスペアディスクを設定する場合は内蔵ハードディスクとハードディスクキャビネット接続用に
それぞれ別のSCSIアレイコントローラカードが必要となります。



SCSIカード[PG-128/130L]について

本カード1枚に外付SCSI装置と内蔵SCSI装置を同時に接続することはできません。

その際は、カードを分けて接続してください。

本カード1枚に接続できる外付けSCSI装置の台数は、

(1) バックアップキャビネットを除く外付けSCSI装置は最大2台までのデイジーチェイン接続が可能です

(LTOライブラリ装置、カートリッジテープ装置はデイジーチェイン接続不可)。

SCSIカード[PG-129/129B]について

: 本カードは内蔵SCSI装置にのみ接続可能です。

接続可能なハードディスクキャビネット数について

ハードディスクキャビネット		ECONEL 40	TX150 S2	TX200 S2	TX600	RX100 S2	RX200 S2	RX300 S2	RX800	BX600	BX660
型名	チャネル数										
PRIMERGY SX30 (ラックマウント)	PG-R1DC7	2	-	-	2	8 (*1)	-	1	2	5	-
PRIMERGY SX30 (ペディスタイル)	PG-DC107	2	-	-	2	8 (*1)	-	-	-	-	-

*1) Linuxで使用する場合は、最大4台までの接続となりますので注意願います。

メモリ関連事項

OSにおける使用可能メモリ容量について

OSにより使用可能なメモリ容量が異なりますので、ご注意願います。使用可能メモリ容量は以下の通りです。

(搭載可能なメモリ容量およびサポートOSは機種により異なります。)

OS	使用可能メモリ容量
Windows Server™ 2003, Standard Edition	4GB
Windows Server™ 2003, Enterprise Edition	32GB
Windows® 2000 Server	4GB
Windows® 2000 Advanced Server	8GB
Windows® Small Business Server 2003	4GB
Red Hat Enterprise Linux ES (v.2.1 for x86)	4GB
Red Hat Enterprise Linux ES (v.3 for x86)	8GB
Red Hat Enterprise Linux AS (v.2.1 for x86)	12GB
Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for x86)	12GB

システム構成図留意事項

SCSI装置(バックアップ)関連事項

バックアップ装置のサポートOSと使用するソフトウェア一覧

<Windows関連>

バックアップ装置	装置型名	規格	記憶容量(GB)	処理速度(MB/s)	Windows® 2000 Server/Advanced Server				Windows Server™ 2003, Standard Edition/Enterprise Edition				Windows® Small Business Server 2003	備考												
					NTBACKUP	BrightStor™ ARCServe® Backup v9	BrightStor™ ARCServe® Backup Release 11	BrightStor™ ARCServe® Backup r11.1	NTBACKUP	BrightStor™ ARCServe® Backup v9	BrightStor™ ARCServe® Backup Release 11	BrightStor™ ARCServe® Backup r11.1														
VXA装置	PG-VX201	VXA-2	80	6.0	Server Start				Server Start				Server Start	定期的なクリーニング必須												
LTO装置	PG-LT101	LTO (Ultraium1)	100	7.5	x				x				高信頼性が必要な基幹業務に適している	定期的なクリーニング必須 ・高信頼性が必要な基幹業務に適している ・自動バックアップ処理可能												
	PGBLT101C																									
	PGSLT101																									
	PG-LTL102	LTO (Ultraium1) ライブリ	1000																							
	LT13**A*																									
DAT装置	LT13**B*	LTO (Ultraium2) ライブリ	6000 12000																							
	PG-DT501	DAT72	3.0	Server Start	x		(*1)	(*1)	Server Start	x	(*2)	(*2)	Server Start	定期的なクリーニング必須												
	PGBDT501C																									
	PG-DT502																									
	PG-DT502D2																									
	GP5SDT401	DDS4	20	3.0																						
	PG-DTA103	DAT72 オート エンジニア	216	3.0	x					x					定期的なクリーニング必須											
	PGBDTA103C	DDS4 オート エンジニア	120	3.0											定期的なクリーニング必須 ・自動バックアップ処理可能											
GP5SDTA102																										

記録容量/処理速度は非圧縮時の値。

NTBACKUPでバックアップした場合、各装置の処理速度よりも遅くなる場合があります。処理性能を重視される場合にはARCserveの使用をお勧めします。

ETERNUS LT130(LT13****)(SCSIモデル)をBrightStor ARCserveで使用する場合はTape Library Optionが必要です。

ETERNUS LT130(LT13****)(FCモデル)をBrightStor ARCserveで使用する場合はStorage Area Network (SAN) Optionが必要です。

内蔵DAT72オートローダ(PG-DTA103/PGBDTA103C)をBrightStor ARCserve Backup Release 11およびr11.1で使用する場合は、パッチを適用する必要があります。

「ServerStart」はServerStart CD内のデバイスドライバを使用することを示します。

*1) Windows® 2000 Serverのみサポート。

*2) Windows Server™ 2003, Standard Editionのみサポート。

<Linux関連>

バックアップ装置	装置型名	規格	記憶容量(GB)	処理速度(MB/s)	Red Hat Enterprise Linux								備考													
					AS (v.3 for x86)		ES (v.3 for x86)		AS (v.2.1 for x86)		ES (v.2.1 for x86)															
					NetVault 7	BrightStor™ ARCServe® Backup v9	NetVault 7	BrightStor™ ARCServe® Backup v9	NetVault 7	BrightStor™ ARCServe® Backup v9	NetVault 7	BrightStor™ ARCServe® Backup v9														
VXA装置	PG-VX201	VXA-2	80	6.0										定期的なクリーニング必須												
LTO装置	PG-LT101	LTO (Ultraium1)	100	7.5	x								高信頼性が必要な基幹業務に適している	定期的なクリーニング必須 ・高信頼性が必要な基幹業務に適している ・自動バックアップ処理可能												
	PGBLT101C																									
	PGSLT101																									
	PG-LTL102	LTO (Ultraium1) ライブリ	1000																							
	LT13**A*																									
DAT装置	LT13**B*	LTO (Ultraium2) ライブリ	6000 12000			(SCSIのみ)				(SCSIのみ)					定期的なクリーニング必須 ・高信頼性が必要な基幹業務に適している ・自動バックアップ処理可能											
	PG-DT501	DAT72	3.0	Server Start	x		(*1)	(*1)	Server Start	x	(*2)	(*2)	Server Start													
	PGDT501C																									
	PG-DT502																									
	PG-DT502D2																									
	GP5SDT401	DDS4	20	3.0																						
	PG-DTA103	DAT72 オート エンジニア	216	3.0	x		x			x	x	x	x		定期的なクリーニング必須 ・定期的なクリーニング必須 ・自動バックアップ処理可能											
	PGBDTA103C	DDS4 オート エンジニア	120	3.0																						
	GP5SDTA102																									

記録容量/処理速度は非圧縮時の値。

ETERNUS LT130(LT13****)をNetVault 7で使用する場合はUpdate2以降を適用する必要があります。

Linux関連事項

Linuxインストール代行サービスバンドルタイプについて

Linuxインストール代行サービスバンドルタイプでは、Linux OSをお客様に代わってインストールするサービス[インストール代行サービス] をPRIMERGYにバンドルして出荷いたします。

Linuxシステムにおけるバックアップソフト

Linuxにおいてバックアップ装置をご使用になる際には、以下のソフトウェアがご使用いただけます。

ディストリビューション	単体バックアップ装置	ライブラリ系バックアップ装置
Red Hat Enterprise Linux ES (v.2.1 for x86)	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9
Red Hat Enterprise Linux ES (v.3 for x86)	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9
Red Hat Enterprise Linux AS (v.2.1 for x86)	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9
Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for x86)	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9

Linuxシステムにおけるメモリ搭載、ロックデバイスの使用可能サイズについて

Linuxシステムではディストリビューションにより最大搭載メモリ容量、ロックデバイスの使用可能最大サイズが以下のようになります。

ディストリビューション	最大搭載メモリ容量	ロックデバイスの使用可能最大サイズ
Red Hat Enterprise Linux ES (v.2.1 for x86)	4GB	1TB未満
Red Hat Enterprise Linux ES (v.3 for x86)	8GB	1TB未満
Red Hat Enterprise Linux AS (v.2.1 for x86)	12GB	1TB未満
Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for x86)	12GB	1TB未満

ディスクレスタイプのサポートについて

ディスクレスタイプにおけるLinux関連情報については、弊社HP(<http://www.fmworld.net/biz/primergy/linux/>)を参照下さい。また、サポートを必要とされるお客様につきましては、別途SupportDeskを契約して下さい。

サポート対象ディストリビューション()

- Red Hat Enterprise Linux ES (v.2.1 for x86)
- Red Hat Enterprise Linux ES (v.3 for x86)
- Red Hat Enterprise Linux AS (v.2.1 for x86)
- Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for x86)

サポートディストリビューションは、本体装置により異なります。

Linuxシステムにおけるスケジュール運転機能について

- ・ RX800においてUPSによるスケジュール運転は未サポートです。スケジュール運転を行う場合はリモートサービスボード（標準搭載）による設定が必要です。ただし、停電時は手動でサーバの電源を投入する必要がありますのでご注意願います。